

世界遺産アカデミー認定講師 File No.5

このコーナーでは、マイスターの称号を得て全国で積極的に啓もう活動をされている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当て、お話を伺います。第5回は初期マイスターでもある小六克介(ごろくかつすけ)さんです。

僕は認定講師として、世界遺産の素晴らしさは勿論、それに加えて、保護・保全がいかに大切であるかを伝えていきたいと思っています。例えば、日光の東照宮にしても、伝統的な修復方法を知っている人はどのくらいいらっしゃるでしょうか。日本建築は多くが木造で建物は雨曝しなので、年月が経てば劣化します。このすばらしい世界遺産は多くの方々をたいへんな努力で保たれているのです。

世界遺産についてお話す時には事前に、どういった方が聞くのか、また学習目的について、必ず確認します。聞き手の興味ある分野と結びつけて説明できれば効果的です。日本以外の世界遺産を説明する時、日本の歴史と比較すると理解しやすいですし、また、文学作品の舞台やオペラ等の話も絡めると聴いている方も、新鮮に感じられるかと思えます。

現在、僕は私立中学校でも世界遺産講座を教えています。大学生や一般の方々に向けた講義とはおのずから内容も異なります。世界史の基礎知識が少ない生徒さんに、どうやってわかってもらえるか。時間配分を気にしながら、教えるポイントを的確におさねなければなりません。『始皇帝陵と兵馬俑坑』を説明する場合、教科書には「兵士の俑(陶製の人形)始皇帝の墓から出土」とあるだけです。「三国志の映画レッドクリフを観てと彼らの興味を惹くことができればいいのですが(苦笑)。検定試験対策講座では満点を取る必要はない、100点満点中60点で合格だから、80点を目標にしようという話をしています。僕にだって何度憶えようとしてもだめな世界遺産があります。それを無理に憶える必要はありません。しかし憶えると決めたものは、曖昧ではなく完璧に憶えることです。

世界遺産との出会いは娘が僕にびったりだと薦めてくれたのがきっかけで、公式テキストをすぐに購

入し、一生懸命勉強しました。もともと歴史は好きなので、歴史と関連のある世界遺産ならよいのですが、自然遺産などはなかなか覚えられませんし、全てを網羅しようとしてもうまく憶えられません。そこで、同じような世界遺産を括りて分類したメモ帳を作り、地図で場所を確認しながら憶えていく、という僕流の記憶術(?)を実践していました。そうすると何か世界遺産の名前が出てきた時に、頭の隅っこに引っ掛かる。記憶の紐を手繰り寄せて思い出す。その紐が見えない時は消去法で正解に辿り着けることもあります。

マイスターとなり、認定講師となって、世界遺産の見聞が広がると同時に、その素晴らしさの根幹にあるものは何か、本当に伝えていくべきものは何か、深く考えるようになりました。まずは、世界遺産の素晴らしさを多くの人達に知ってもらうことが第一ですが、その保全のために為されている多くの方々のご尽力にも目を向けてほしいと、できるだけお話するようにしています。

実際の修復現場を見てみたいと思い、世界遺産クラブの有志と共に日光の東照宮を訪ねようと思いましたが、伝手などなかったため、とりあえず日光市役所に向かいました。生涯学習課の係員にお会いできたものの、「あなた方はどういう方ですか」と冷やかな質問をされました。世界遺産への思いを一生懸命に話し、最終的に係長さんから日光の社寺の補修・保全を一切引き受けている「日光社寺文化財保存会」に取り次いでくれました。東照宮、輪王寺、二荒山神社、それぞれに「許可願」を申請する必要もありました。東照宮や輪王寺では、保存会の漆塗専門技術主任の佐藤さんが丁寧に説明してくださいました。お盆や器などの漆器と違って東照宮などは建物です。屋外にあるので、漆を塗るには毎日、その日の温度と湿度、さらに風の強弱までも考慮し



マチュ・ピチュ遺跡の写真が盛となっている
素敵な腕時計をお持ちの小六さん

なければならぬ。温度や湿度をコンピューターに入力して自動的に決めるということではできない。「経験しかない。これを後継者に伝えるのがむずかしい」とのことでした。漆が多量の酸素を吸入し、酸化作用で液体から固体へと硬化することによって「乾く」とは知りませんでした。塗ってある部分を叩き落とし、剥がし、漆が垂れないように、玉にならないように、塗り終わりを盛り上げる。多い時で36工程もある作業をしなければなりません。そして、ようやく美しい漆塗りが出来上がるのです。本当に奥深い世界を目の当たりにして、本当に感動しました。

世界中には素晴らしい世界遺産があります。くねくね曲がったハイラム・ビンガム・ロードを抜けると、突然絶景が飛び込んでくるマチュ・ピチュ。クフ王のピラミッドは、日本では竪穴式住居で生活していた頃、古代エジプト人が正確な測量で巨大な建造物を完成させました。世界遺産の素晴らしさはやはり現場に触れてみるのが一番です。その一方で、その保護・保全のための努力があるからこそという事実も忘れてはならないと思います。